

## 第634回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1. 北陸新幹線川北橋高架橋建設工事

北陸新幹線は、東京・大阪間を結ぶ路線として、昭和48年に全国鉄道整備法に基づく国の整備計画が決定されています。平成9年に高崎・長野間が開業（東京・高崎間は上越新幹線と共用）し、平成27年3月には長野・金沢間が開業しました。金沢・敦賀間については、平成24年6月、国により着工が認可され、同年8月に着工されました。平成34年度末の完成・開業を目指し鋭意、工事を進めており、県内全区間が開通することにより、新幹線を核としたまちづくりが進むことが期待されます。

…………… 白山市末正・川北町橋



### 2. いしかわ動物園トキふれあいセンター建設工事 [H28年度全建賞]

…………… 能美市徳山町

本州最後のトキの生息地である本県はトキにゆかりの深い県であり、国が鳥インフルエンザなどのリスク回避するため、分散飼育の方針を打ち出した際もいち早く受け入れを表明しました。以来、近縁種による訓練や繁殖ケージ等の整備を経て、平成22年1月から分散飼育を開始し、国のトキ保護増殖事業に貢献してきました。これらの経緯を踏まえ、公開のためのケージと観覧通路、学習施設を新たに建設しました。施設の整備にあたっては、平成26年に環境省が策定した「分散飼育地におけるトキの一般公開にあたっての諸条件及び手続きについて」を遵守し、設計及び工事を進めました。

なお、本事業はトキの飼育環境に配慮するとともに、来場者に対してもバリアフリーの配慮をしつつ、より自然に近い環境の様々な場面でのトキを観察できるように工夫されていることが評価され、平成28年度の全建賞を受賞しました。

**エントランス**  
里山を連想させる古民家風エントランス



**観覧ポイント1** 「里山を飛翔するトキを見上げて観察」



**観覧ポイント2**  
「餌をついばむトキを間近で観察」



**観覧ポイント4**  
「止まり木で休むトキを野鳥観察全風の『のそき窓』から間近で観察」



**観覧ポイント3**  
「木に止まるトキを同じ日線で観察」



3. 歴史文化資産を活かしたまちづくり（主計町地区・東山地区）…………… 金沢市東山地区

金沢市は、加賀百万石の城下町として金沢城、特別名勝兼六園を中心に繁栄してきた文化都市です。また、非戦災都市であることから中心部には武家屋敷群、茶屋街などの歴史遺産が数多く残っており、城下町の面影を色濃く保っています。平成24年度までに4箇所が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。こうした歴史遺産やまちなみを後世に継承するため、金沢市では半世紀前から景観の保全を目的に景観政策に力を注いでおり、そのひとつとして無電柱化を実施しています。

主計町地区は、浅野川に架かる浅野川大橋詰に位置し、明治期より茶屋街としてまちなみが整えられてきました。浅野川沿いは石張舗装等の修景整備とともに無電柱化が行われ、現在は、川沿いから1本裏通りに入った路地で、茶屋建築の街並みや「くらがり坂」「あかり坂」といった観光名所につながる狭隘な道路で、金沢市初の軒下配線方式による無電柱化を実施しました。従来の無電柱化は、架空線の全てを地下の管路に配線しますが、主計町地区においては、全ての管路を埋設するスペースが地中に無く、従来の方法では無電柱化を行うことが困難であったため、従来の地中化方式と軒下配線方式との併用による無電柱化の方法を採用しています。

東山地区は金沢城の北東、浅野川の北側に位置しており、茶屋街としての街並みや文化を今日に伝えています。この地区では、「東山ひがし」と「卯辰山麓」の2箇所が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されており、江戸時代後期の地割りと茶屋様式の建造物群が今も色濃く残る全国的にも希少な茶屋街であることから、建物と調和のとれた修景整備を行い、歴史的な街並みの保存を図っています。

「東山ひがし地区」の中央に位置する旧二番丁通りでは、街並みの保存を図るため伝統的建造物の保存・修理等を実施してきており、道路（石張り舗装）の修景整備にあわせ無電柱化も行いました。また、茶屋街のエントランスである「卯辰山麓地区」の東山木町通りについては、北陸新幹線の金沢開業にあわせ、平成27年3月に地中化方式による無電柱化と修景整備を完了しました。これらのまちなみ景観整備等により、金沢を代表する歴史的な地区として訪れる観光客も年々増加しています。



東山ひがし地区



主計町地区

4. 金沢城公園 第二期整備事業 [H28年度全建賞]

…………… 金沢市丸の内

金沢城公園は、平成8年に大学跡地を県が取得し、本県の歴史、伝統文化を象徴するシンボル空間として、史実に沿った質の高い整備を進めています。平成7年度の事業着手以来、菱櫓等の復元整備、公園の基盤整備等を行った10年間にわたる第一期整備に引き続き、平成18年度からは第二期整備に取り組み、平成22年には金沢城三御門のひとつ「河北門」の復元、「いもり堀」の水堀化が完成しました。平成27年3月には、城内で最も格式が高かったとされる「橋爪門（二の門・枳形）」の復元、石垣と一体となり高低差が20m以上にも及ぶ立体的な造形が特徴の「玉泉院丸庭園」を再現し、北陸新幹線の金沢開業に合わせて供用しました。

なお、本事業は県民参加による城づくりにより、地域の歴史的、文化的資産である金沢城跡の文化遺産としての価値を育むとともに、事業への理解向上が図られ県民運動として盛り上げが図られた。その結果、北陸新幹線開業効果と相まって入園者数が増加し、石川県を代表する観光拠点となり新たな魅力向上に貢献していることが高く評価され、平成28年度全建賞を受賞しました。



玉泉院丸庭園



橋爪門